

産官学シンポジウム 2024 開催趣旨

『ヘルスケア産業における日本の強みとは何か』

世界の創薬の潮流は、かつては低分子医薬品の開発、すなわち化学合成による創薬が中心であったが、21 世紀に入って、徐々にバイオ創薬がその比重を高めており、さらに核酸医薬、細胞治療や遺伝子治療など、新たな技術が生み出されることにより、モダリティはいよいよ多様化している。日本のヘルスケア産業の課題として、これら新規モダリティにおいて、イノベーションが生まれにくい、構造的な状況に陥っているとも言われ、創薬面の「遅れ」や「弱さ」が最近ではクローズアップされている。これら日本の「弱み」を克服する方策に関しては、様々な場で多様な議論が為されている。

確かに日本のヘルスケア産業全体、というマクロな観点で見れば、バイオ創薬面での遅れなど、「弱み」に注目が集まりがちであり、克服する努力は必要であるが、一方で、特定の創薬技術や疾病領域、さらには生産技術など、よりミクロな点に目を向ければ、キラッと輝く「強み」も浮かび上がってくる。そして、企業の創薬を基礎の面で支える、日本のアカデミア発の創薬シーズについても、ブロックバスターにつながるポテンシャルを持ったものが決して少なくないと言われている。疾患治療も以前のように生活習慣病や感染症、アレルギー疾患等、Common Disease が中心であった時代から、より希少疾患や個別治療が中心の時代へと移行しつつあり、Common な技術に加え、個別の技術の優越性が、すなわち「強み」が重要になってきている。

当シンポジウムは、この「強み」に焦点を当てることにより、「なぜ強みとなり得たのか」、「その強みの本質は何なのか」、「その強みを生かすためにはどのような環境が必要なのか」、「強みを持つために、もしくは強みをさらに強化するために、行政としてはどのような施策、制度を考えていけるのか」などを議論する場としたい。

パネルディスカッション座長
北里大学大学院薬学研究院教授
医療科学研究所理事
成川 衛